

【 議 事 録 】(概要)

実施日時 令和2年8月4日(火) 18:30～20:30

会 議 名	越谷市総合振興計画審議会 環境・防災・産業振興部会 第1回会議	会場	越谷市役所本庁舎5階 第2委員会室
件名/議題	【越谷市総合振興計画審議会環境・防災・産業振興部会 第1回会議】 1 開会 2 議事 第5次越谷市総合振興計画前期基本計画(素案)について 3 その他 4 閉会		資料:(<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無)
出席者	<p><委員>(8人) 〔1号委員〕 石山博委員、井橋吉一委員、岡崎尚而委員、金子繁雄委員、豊田好輝委員、 中村将義委員 〔2号委員〕 松苗真吉委員 〔3号委員〕 柳澤茉莉委員</p> <p><事務局>(3人) 市長公室政策課:戸張調整幹、杉野主幹 策定業務支援者:ランドブレイン株式会社(1人)</p> <p><職員>(10人) 平井危機管理課長、川島くらし安心課長、五十嵐環境政策課長、 會田リサイクルプラザ所長、佐藤産業廃棄物指導課長、小澤産業支援課長、 岩永観光課長、福澤農業振興課長、森野都市計画課荻島地区土地利用推進室室長、 齋藤消防本部総務課長</p> <p><傍聴者>(0人)</p>		
欠席者	なし		

越谷市総合振興計画審議会 環境・防災・産業振興部会 第1回会議 会議録概要

<越谷市総合振興計画審議会 環境・防災・産業振興部会 第1回会議>

1 開会

政策課戸張調整幹の司会により越谷市総合振興計画審議会環境・防災・産業振興部会 第1回会議を開会

第5次越谷市総合振興計画基本構想（素案）答申について、事務局から報告。

岡崎部会長より開会のあいさつ

2 議事

・傍聴者の確認（傍聴者なし）

(1) 第5次越谷市総合振興計画前期基本計画（素案）について

・事務局から、分野別計画・大綱4及び大綱5について説明を行った。

・部会長より、審議の進め方について、大項目ごとに進める旨委員に確認し了承を得た。

1) 大項目4-1について

(部会長) 4-1について審議します。何かご意見はありますか。

(委員) 次回までに数字が出るということだが、数字があったほうが意見を出しやすい。今は数字が記入されていないので、次回大まかな数字が出たところで協議したほうがよいのではないか。現時点で数字は出ないのか。

(環境政策課長) 目標値の部分は検討している最中なので、はっきりとした数字についてはもう少しお時間をいただきたい。

(委員) 現状値も出ないのか。

(環境政策課長) この指標で進めるかどうか、計画についても少し不確定な部分があるのでご理解いただきたい。

(委員) 86ページの温室効果ガスについてもか。

(環境政策課長) 温室効果ガスの排出量については、現在埼玉県の方で計算の仕方を検討しているところである。それに合わせた形で算出しようと考えているため、数字が出ていない状況である。

(事務局) 今ご意見いただいた指標に関して、4-1については空欄が多く、他の審議会の方で議論している部分でもある。部会については本日と8月27日の2回を予定しており、本日全体の協議をした上で、第2回ではいただいた意見を事務局で整理し、部会の報告ということで、その次の第6回全体会議に環境・防災・産業振興部会からの報告という形であげる流れを想定している。全体として指標は、暫定値ではあるが現時点でお示しできるものは記載するようにしている。今後予算や実施計画策定の中で変動してくる面もあるため、あくまで暫定値としてご理解いただきたい。部会では5年後のめざす姿や施策の方向性、さらに施策の進み具合を測る物差しとしての指標、つまり数字と言うよりは内容としての部分が適切かどうかを審議いただきたい。

(委員) 構わないが、現状だけでも見ないと我々は専門家ではないので分からないので、次回にという提案をした。どうしても協議が必要ならするけれど、現状がわからないのに、少し難しい話である。

2) 大項目4-2について

(部会長) 4-2について審議します。何かご意見はありますか。

(委員) 防災における自主防災組織のカバー率について説明していただきたい。

(危機管理課長) 自主防災組織のカバー率については、世帯数ベースで算出するもの、つまり全体の世帯数に占める自主防災組織がある町会の世帯数を割合で示した数字である。自治会に加入していない世帯の方々も含めた世帯数がベースになっている。世帯数ベースで90.8%の方々には自主的な防災組織で支援していくという意味である。

(委員) 原案についてどうということではないが、先ほどの数字の話も含め、もう少し具体的に書かないと。「だれもが安全で安心して生活できる」とあるが、こんな程度で安心できるのかとなってしまう。ただの謳い文句では実効性のないものになってしまう。言葉もそうだし、これだけは実行しようということを明記してほしい。市民がこれを見ても「ああまた始まったな」とだけ思って終わってしまう、モチベーションが湧いてこない。たくさんはできなくても目標をきちんと明記したほうがよい。ひと口に防災といっても一般市民の認識は「役所がなんとかしてくれる」となるので、そうではなくて市民意識なのだと、一人ひとりの認識が高まるような内容にできるとよいと思う。

(事務局) 総合振興計画は多岐にわたる総合的なまちづくりの計画なので抽象的な方向性を示すだけの表現になっているのは否めない。それを踏まえると89～90ページも大きな方向性を示しているのみだが、右側の「関連計画」においては、それぞれ総合振興計画に紐づく具体的な内容を示している。

(委員) 第4次の時から見ても、市民が危機意識をもっていない。もっと市民の意識を醸成して取り組んでいかないと効果は出ない。市民にこう考えてもらいたい、こう意識をもってもらいたいなど、市民もお客さんではなく当事者なのだから。

3) 大項目4-3について

(部会長) 4-3について審議します。何かご意見はありますか。

(委員) 消防団に携わっている身として、400人の団員がいる中で女性の消防団もいる。建替えをやらせてもらっている最中だが、女性は現場にトイレがないので、本部の仕事をしてもらっている。少し言いにくいのだが、消防団は時間関係なく活動しているが評価が低い。夜中の火事で出動しても費用弁償は同じ、日をまたげば2日分となるが、次の日は半日仕事にならない状況。さらに器具も新しく配備されるので訓練も必要であるが、消防団の負担がかかるので訓練の日にも増やさないようにしている。若い人は家庭重視の面もあり、入団が少ない。よって文章でどう表現するかは検討が必要だが、消防団の待遇改善、そしてノウハウのある消防職員OBの組織化を考えていただきたい。市長にも話はしている。

(委員) 現状とあまりかけ離れると、絵にかいた餅になり、議論していても寂しい気持ちになる。これだけ災害がたくさん起きていると「前向きに取り組んでいく」という体制づくりが必要だと思うので、是非入れてもらいたい。

(委員) 地域消防をやられている方は想いと現実との落差があると思う。私は理解しているつもりだが、一般市民は越谷市消防と地域消防の違いが分かっていない。なぜ地域消防があるのか、越谷市消防があるじゃないかと、そんな程度の認識が大部分。地域消防の任務の重要性の理解がもう少し深まれば変わってくると思う。

(委員) めざす姿の部分は災害全体を捉えて記載されていると思うが、特に火災に対する色が強いと思う。例えば98ページの「救急手当講習会受講人数」についても人数だけではなく開催回数も併せて考えないと、市で開催している回数が少ないから人数も少ないとなってしまう。そのあたりの周知方法についても、もう少し検討してほしい。先ほどの消防団の話もそうで、市民一人ひとりの意識醸成のために小中学生へのソフト面でのアプローチを行うなどを示しても良いのではないかな。

(消防本部総務課長) 消防団については、自らの地域を自らで守るという郷土愛精神に基づき、火災など実際の現場に対応している。先ほどから話に出ている消防団の処遇改善については、人的組織の充実や消防団の活動に対する市民意識の改革を行い、環境づくりに努めたいと思う。応急手当講習会については、5年後のめざす姿として心肺蘇生法の実施率を目標値50%で設定し、心肺停止になった人に対する応急処置を2人に1人が行えるよう指導することを考えている。

(委員) 安全安心に関して、茨城県の東海原発で事故を起こした際には越谷市が水戸市の住民の避難を受け入れるという協定を結んでいる。5~6千人受け入れることになっていると思うが、どういう受け入れ体制になっているのか。また越谷市自体も90kmぐらいしか離れていないので避難の対象になるのではないかと思う。どのような対策を立てているのか。

(危機管理課長) 水戸市との協定については、埼玉県で取りまとめを行っており、現在水戸の方が埼玉県のどの市町村に避難するかというシミュレーションを行っているところで、実際の運用に向けて協議を進めている状況である。2点目の越谷市も避難対象ではないかということについては、現状は水戸市の避難についての検討のみなので、今後検討すべきと考える。

(委員) 数字的には5,000~6,000人を小学校の体育館で受け入れることになっていると思うが、実際に可能なのか。

(危機管理課長) 現在指定避難所が市内に92か所あり、約35,000人収容できる想定である。それは茨城県南部地震が発生した際の越谷市の被害状態が約20,000人だと埼玉県の調査で出ているため、その半分が避難所を利用するという想定である。よって水戸市からの広域避難の受け入れは可能だと考えている。ただ具体的にどこの避難所に避難してもらおうということについては未決定である。その状況下で配分していくことになると思う。

(委員) 97ページに「耐震性貯水槽の設置数」とあるが、防火用水のための耐震性の貯水槽と理解してよいのか。

(消防本部総務課長) 一般的には「防火水槽」と呼ばれているもので、防火のための水槽である。またこの「耐震性貯水槽」には飲料水兼用のものもあるが、消防で設置するものは消火用であり、大地震の時でも防火水槽が壊れて使えないことがないように耐震性に優れたものを使うということである。

4) 大項目5-1について

(部会長) 5-1について審議します。何かご意見はありますか。

(委員) 5-1のめざす姿の説明の最後に「良好な企業立地を促進することで魅力ある工業の振興を目指します」とあるが、工業と言い切って良いのか。越谷の産業を今後工業に振っていくという考えであればこれで良いと思うが、全体との整合がこの一言で台無しになっていると思う。

(産業支援課長) 最後には「工業の振興を目指します」とあるが、前段の文章で「さらに~商業の振興のほか」と記載しているので、工業だけではなく商工業と理解していただきたい。

5) 大項目5-2について

(部会長) 5-2について審議します。何かご意見はありますか。

(委員) 105ページの現状の部分で「観光産業として、集客力や消費喚起力のある資源が不足しています」とあるが、ここでいう「集客力や消費喚起力のある資源」とはどのようなものをイメージしているのか。

(観光課長) “集客力がある”については、市内に資源はたくさんあるが、それを目的に越谷に来

る人、爆発的な集客力を要するものがないということである。“消費喚起力”については、例えば今やっている苺でいうと、現時点では苺それ自体で終わっているが、それに伴う加工品などを作るなど広がりを持たせていくことをイメージしている。

(委員) 同じく105ページの現状の部分で「市民の愛着や誇りに明確につながる発信や都市ブランドの確立には至っていません」とあるが、愛着の持ち方は幅広く存在すると思うが、越谷市の歴史ある獅子舞だとか伝統的な祭りなど、市のシンボル性確立につながる戦略などがあれば知りたい。

(観光課長) シンボリック性のあるイメージ戦略といったときに、残念ながら人それぞれでは持っていない、市民の総意としての市のシンボリックな資源はないので、これから成長させていきたいと考えている。具体的な戦略はないが、5-2全体において暮らしやすさや生活利便性という部分にスポットを当てて市民の郷土愛を醸成することで、シンボリックなものに成長させていけるのではないかと考えている。

(委員) 5-2は市外へのPRなのか、それとも市民に対してのPRを意識しているのか、ごちゃごちゃになっている印象を受ける。シビックプライドとして「越谷市は絶対これだ」というものがないということと、市外の人が目指してくる何かを一緒にしてしまうとうまくいかないと思う。

(観光課長) 事業的には切り分けて進めていきたいと考えている。シティプロモーションはどうしても対外的なところに目が向きがちだが、特にブランドの構築などについては対市民を意識していきたいと思う。市民がシビックプライドをもつことで、市外の人にも魅力的な街に映り、その延長線上でのシティプロモーションの展開を考えていく。

(委員) 大綱5には記載されていないが、大綱3の方で道の駅やサンシティの整備のことが書かれており、そういったところも観光に結びつくのではないかと思うので、そのあたりを施策の方向性の部分に記載してはどうか。

(観光課長) 今のご意見は66・70ページの都市基盤の部分の記載であるが、道の駅については基本計画の素案を作成中なので、今後はそれをどう観光的に広げていくかを調査していく段階である。サンシティについても懇談会等で市民の意見を聞きながら在り方を検討していく状況であるため、どちらも5-2の内容と結びつけながら考えていきたいと思う。

(委員) 越谷らしさに結びつく資源について、委員の皆様がどう考えているのか知りたい。私としては元々治水のために土地を開拓して、稲作で街が広がってという歴史がある中で、今はレイクタウンができて新たに苺をつくってと新たな方向へ向かっている印象がある。そういった中で地域のらしさとは何か、元々の地域資源をベースに行く方が良いのではないかというのが個人的意見である。

(委員) 今説明された元々の地域資源と言うのは「田んぼのまま」ということか。

(委員) 日光街道沿いは宿場町として発展した歴史があり、西側には豊かな水田が広がっている。特に522の指標で言うと、東側に全て集約しているような印象を受けているし、私の世代は越谷市にずっといたいと言われると微妙な部分がある。地域に元々あった農業などのことは、皆様の「越谷らしさ」の中にはもうないのかということを知りたい。そういうのがないと他の地域と比べた時に「越谷市ってそんなものだよ、レイクタウンがあるところだよ」で終わってしまうことに危機感を持っている。

(委員) 「らしさ」といったときに、東にはイチゴタウンや農協の直売所がある。確かに西にはなく、県の商業団地の計画だけがあるが、私は西に住んでいるのでそういったものが欲しいと思う。その上で越谷らしい農地や水田を守る上で、兼業農家が農業自体をやっていけないことが現状。水田を守るには、農産物を売って収入を得ないと生活できない。サラリーマンは兼業なので、農機具にサラリーのお金を投じているが、対価がないから皆辞める。今は地産地消で学校給食にも食材を提供しているが、例えば「越

谷の米しか買わない」などそういう市民の理解があつて単価を上げるなどできないと、農業予算は本当に少ないし、農家が農産物で生活できればみんなやめない。皆さんが10年後いるかもわからないが、越谷をつくる気持ちを持つことが大切である。「きれいな田園風景を守る」など言葉はきれいだが、守れないのが実情である。

(委員) 市が「地域のらしさ」に結び付けていかないと農業も守れないし、自然環境も守れない。安心して暮らせる環境を維持できないので、そういう面も市民にアピールしてはどうかと投げかけた。

(観光課長) 貴重なご意見に感謝する。「越谷らしさ」とはおっしゃる通りで、先ほどは観光分野などの話をしたが、今市で目指そうとしているのは一人一人が持っている「らしさ」を古いものから新しいものまでしっかりと洗い出すことである。その上で今後、農と都市が混在していることにどう価値をつけていくかを考えていきたい。

6) 大項目 5-3 について

(部会長) 5-3 について審議します。何かご意見はありますか。

(委員) 110ページの指標の「地場農産物の認知度」について、直売所だけでなく庭先での時価販売などの取組みも、市内の農家にPRすることを考えて欲しい。

(委員) それに関連して田園住居地域でのアプローチは考えていないのか。

(委員) それも含めてだが、生産緑地制度の税制優遇措置があと2年くらいで最初の区切りが出るので、こちらについても市街化区域内の農地をもう少し優遇する取組を記載してほしい。

(農業振興課長) 生産緑地については所管の公園緑地課と連携して何年後かに来る解除に向けてどうすべきか検討を進めている。手放したい、売りたい、という意向がほとんどだが、そこを何とか残してもらえないかという方向で考えている。

(委員) 112ページの533の指標は、どの自治体も使っているもので、指標にしやすいものだと思うが、もっと新たな就農スタイルを施策として展開できないのか。法律上、農業経営上難しいものなのか。例えば雇用に関する経費を市が補助してアルバイトを雇い、新規就農者数を増やすなどはできないのか。

(委員) 新規就農者は実家を継いだ人はカウントされない。実際に独立して経営する人のみの数字なので、親元就農が入ればもう少し数字が上がる。畑作に比べて、稲作は人手が必要な時期に限られるため、アルバイトを取り入れにくい。私の場合はシルバー人材センターへ頼んでいる。

(委員) 近所でもクワイの収穫を辞めた人がいる。

(委員) 農協としては6次産業にも取り組んでいるが設備がかかる。つくっても販路が難しいので、なかなか農家が6次産業に入れないのが現状。

(委員) 6次産業もやっているが、商品開発にはお金がかかる。

(農業振興課長) いろいろご意見いただき感謝する。最初の新規就農の指標については研修制度参加者数なので、実際の就農者数とは異なることをご理解いただきたい。それから雇用面についてもこれまで通り、農協や農家と継続的に話をしながら進めていきたい。

7) 大項目 5-4 について

(部会長) 5-4 について審議します。何かご意見はありますか。

(委員) 女性・高齢者・若年層の現状と目標値が記載されているが、障がい者の就労の現状についても入れてはどうか。49ページ大綱2にも出てくるが、労働の部分にも入れてはどうか。大綱2では現状と目標の数値の差がなく、とても対応しているように思えない。

(事務局) 指標を再掲するという趣旨で作成していないため、大綱2の福祉分野に関する指標の

掲載をすることは難しいことご理解いただきたい。

(委員) 福祉の分野に入っているため再掲は難しいということは理解した。しかし産業支援課として働きたいという障がい者が増えているという分析をしているのに、5年後の就労数があまり変わらないということはどう考えているのか。

(産業支援課長) 大綱2の所管および障がい者の就労に関する指標は産業支援課ではないため、指標について詳細をお答えすることは難しい。障害者就労支援センターの状況を外から見ていると、就労が定着していない印象がある。そういった状況を加味して、障害福祉課の方で97の現状に対して目標100と掲げたのではないかと推測する。

(部会長) 最後に全体を通して、ご意見はないか。

(委員) 104ページの514の「企業立地」の中で荻島地区の進捗率をお聞きしたい。

(都市計画課荻島地区土地利用推進室長) 現在は権利者に説明をしながら合意を取っている状況である。権利者の合意が100%確保できないと事業化して予算を付けられない。今現在、権利者の何パーセントという話まではできないが、日々権利者とていねいな折衝を進めている。また埼玉県企業局と越谷市との共同事業方式で進めている。

(事務局) 冒頭4-1について指標が入っていないということで、4-2から意見をいただいた。しかし次回8月27日には本日のご意見を踏まえ、部会報告書を作成予定である。4-1について、指標は方向性を示す物差しとしてお考えいただき、大項目に関する内容や各中項目における文言を含め、改めて議論していただきたい。

(委員) 411で脱炭素社会をつくとあるが、まずは低炭素社会を目指す必要があるのではないか。そこから脱炭素社会に向かうという方向性がよいのではないか。

(委員) 413「生き物・人が共生する社会をつくる」とあるが、農業関係からすると脱除草剤でふるさと米づくりの試みをしたりしているものの、あまりこうやって明記されると我々のやっていることは悪いことのように思われる。強調しすぎない方がよいと思う。

(委員) その悩みは農家だけの問題ではない。社会的貢献を加味した新薬が出ればいい。

(委員) 86ページのめざす姿に関連する達成指標「市民1人1日あたりのごみ排出量」の目標値をやめて、緑の基本計画の内容を入れてもいいのではないか。緑の基本計画は具体的に緑を大切にするという内容なのでここでも必要だと思う。

(環境政策課) 緑の基本計画に関する内容は3-3で目標を掲げて記載している。よってここでのごみ排出量の記載は残したい。

(委員) 基本構想の社会情勢の部分で、グリーンインフラのことが書いてあるが、大綱3から大綱5にグリーンインフラのことが1つも書いていない。グリーンインフラはこのあたり全体にかかることだと思われるので、記載を検討してほしい。

(事務局) 基本構想では日本を取り巻く社会潮流の中でグリーンインフラについて記載をしている。基本計画の中では具体的な表現はないが、大綱3の中で概念は含まれているものと認識はしている。

3 その他

事務局から次回の審議会について説明を行った。

4 閉会

井橋副部長より閉会のあいさつ

政策課戸張調整幹の司会により越谷市総合振興計画審議会環境・防災・産業振興部会 第1回会議を閉会

以上

この会議録は、会議内容と相違ないことをここに認め署名する。

令和2年8月27日

越谷市総合振興計画審議会 環境・防災・産業振興部会

署名委員

石山 博
金子 繁雄
豊田 好輝